

第 3 回 総合的な英語力評価推進WG 「GTEC」

「GTEC」では
「英語を学ぶ人を元気づけ、一人ひとりの未来の可能性を広げる英語学習のエンジンでありたい」という想いを出題や評価に込めています。

出題設計

学習指導要領の趣旨に沿い、中高生のリアルな英語使用場面を想定したタスクベースの出題で学年によらず、受検者全員が4技能における「英語を使う力」を測定できる。

評価設計

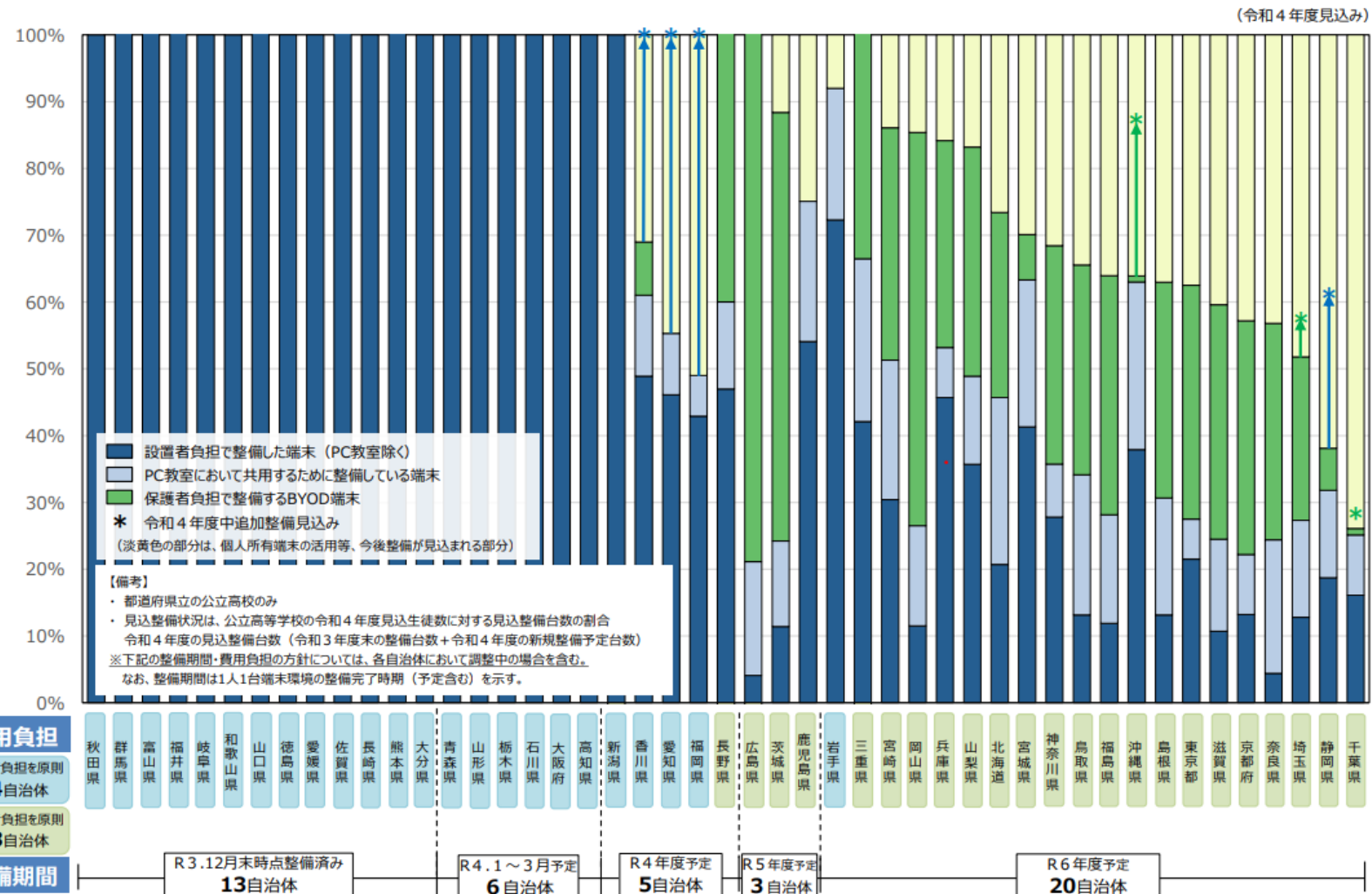
絶対評価スコアに加え、CEFRレベルと「GTEC」のcan-do statementsで、自分の英語力でできることを実際の英語使用場面と紐づけて英語力を具体的に把握したり、技能別の目標設定ができる。

「GTEC」は高校会場での実施と受検しやすい検定料で提供

	「GTEC」 検定版
タブレット送付台数	申込人数の半分＋予備の専用タブレットを送付
検定日	第1回：6月10日（土） 第2回：8月26日（土） 第3回：12月9日（土）
受検可能な学年	中学1年～高校3年
申込方法	「Benesse High School Online」での学校申込
受検会場	学校
試験監督	実施校の先生方による監督
事前事後学習教材	スキルUPワーク
返却物	オフィシャルスコア証明書「OFFICIAL SCORE CERTIFICATE」 生徒用帳票「SCORE REPORT」・表彰状・教師用帳票
標準受検料（税込み）	6,500円

事例共有（学校端末利用）

公立高校における端末の整備状況（見込み）について（都道府県別）



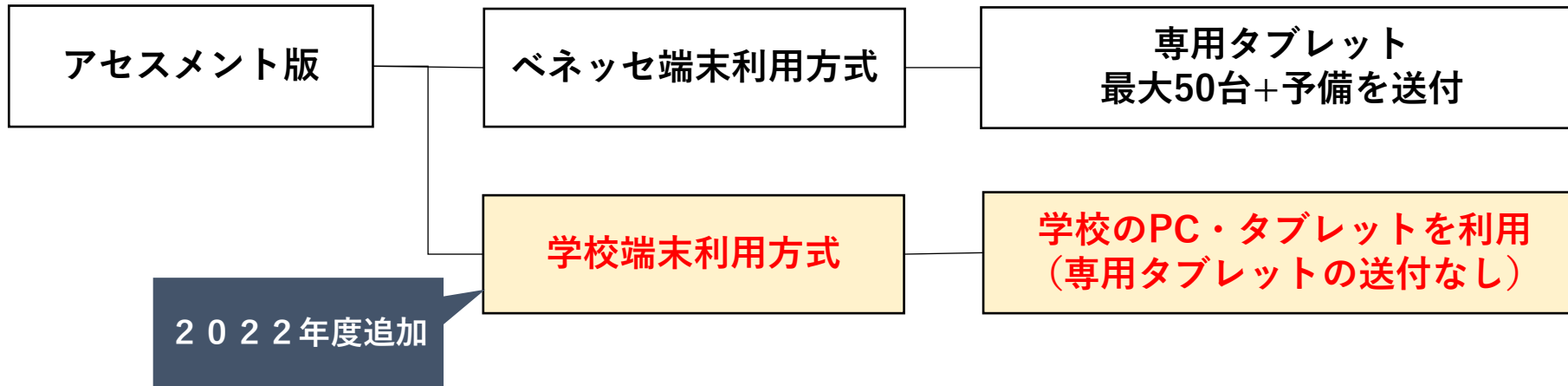
- 令和4年度中にすべての都道府県において、令和4年度1年生の1人1台環境整備が完了予定。
- 6年度までに、すべての自治体、全学年の1人1台環境整備が完了予定



1人1台端末の環境が整うと同時に、端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びの活性化が予想される。

高等学校における学習者用コンピュータの整備状況について（令和4年度見込み）
 令和4年2月 文部科学省初等中等教育局

2022年度より、実施方式に
『学校PC・タブレット（学校端末）を利用した受検』を追加



- アセスメント版において、学校の1人1台端末等をご利用いただき、学校のインターネットに接続のうえ、WEB上でSpeakingテストを受検できる実施方式を追加。
- 学校はお申込み時にどちらの方式かを選択。
- 学校端末利用方式の場合、ベネッセ端末利用方式よりも受検料が安価。

申込前の受検環境チェックで、安定した本番実施を実現



新実施方式の流れ



結果

「GTEC」の学校端末利用方式を260校、60,102人の高校生（一部中高一貫校の中学生）が受検。解答音声を手正しく回収できないというトラブルなく、受検者にスコア返却完了。

顧客の声

GIGAスクール構想におけるICT端末を測定で活用することで、4技能テストの実施しやすい環境を提供することができている。

タブレットの仕分け、回収が必要なく手間が省けたことは何よりもありがたい。どのコマで実施するのか調整が不要になったことも助かる。

愛知県 S高校

運搬作業や、仕分け・回収作業がなくなり、負担がかなり減った。生徒は自身のタブレットなので操作に慣れているのも安心できる。

福岡県 T高校

事前環境チェックが問題なくスムーズだったおかげで、試験当日は落ち着いて実施することができた。

千葉県 S高校

普段使っているタブレットなので生徒はすぐとりかかれる。授業時間内で実施でき、運営しやすい。インストラクションがわかりやすいので生徒も迷いが無い。スピーキングテストが手軽になった。

愛知県 T高校

接続面の問題はほとんどなし。教員の事前準備は必要なく、マニュアル通りに実施すれば問題なく進み、労力が減少した。タブレットの保管場所がいらぬというのも良い。

長崎県 S高校

課題

◆学校のネットワーク整備状況

一人一台端末が整備されていても、学校のネットワークが弱く、一斉実施ができない学校がある。

◆推奨環境外での受検

端末個々の状況（サウンドの設定や空き容量など）が異なることで、実施中教員による個別対応が必要となるケースが発生している。

実施状況

「GTEC」では全国検定振興機構による第三者評価として「自己評価」を2018年度に実施。

今後の予定

2023年度 7月～11月

全国検定振興機構による第三者評価
総括評価【簡易版】※書類審査

2024年度 4月～9月

全国検定振興機構による第三者評価
総括評価【公式版】※訪問審査